

# 2017年度 成蹊大学ティーチングアワード 受賞者

## 経済学部

**時岡 規夫 教授** (主な担当授業科目) 国際経営

受賞の対象となった上記の科目では、シラバスなどの記載や授業運営も適切に行っていること、学生からの個別意見として、丁寧なレジュメやクイズへのコメントに対する好評価が挙げられていたことなどから、学生の評価は極めて高く、その結果として、授業評価アンケートにおいて興味の喚起、全体の満足度の点で極めて高い評価が示されたことから、このたびの受賞となりました。

**山崎 由香里 教授** (主な担当授業科目) 人間情報処理

受賞の対象となった上記の科目では、シラバスなどの記載や授業運営も適切に行っていること、授業中に適時適切に課題を提示し、その取り組みの成果が学期末試験の結果に結びつくなど、学生の授業での努力を適切に評価していた。その結果として、授業評価アンケートにおいて興味の喚起、全体の満足度の点で極めて高い評価が示されたことから、このたびの受賞となりました。

**挾本 佳代 教授** (主な担当授業科目) 環境問題の基礎

受賞の対象となった上記の科目では、シラバスなどの記載や授業運営も適切に行っていること、学生の立場に立って、学生に学びやすいペースで授業運営を行っていることで深い学びができているという評価が多く寄せられていました。その結果として、授業評価アンケートにおいて興味の喚起、全体の満足度の点で極めて高い評価が示されていたことから、このたびの受賞となりました。

## 理工学部

増田 斐那子 准教授 (主な担当授業科目) College English(Reading & Writing)  
College English(Global Topics)  
科学英語

受賞の対象となった科目では、学生の興味関心を喚起するよう、次のような取り組みを行っています。

- ・ College English(Reading & Writing) : 英語に苦手意識や不安を持つ学生に対し、細かいところにとらわれすぎず、全体の流れをつかめれば良いとアドバイスをしている。
- ・ College English(Global Topics) : TED (Technology Entertainment Design) トークを取り入れることで、テキストや新聞記事だけからは見えてこない情報に触れ、モチベーションの低かった学生に興味を持たせるようにしている。
- ・ 科学英語 : 学生の状況に合わせて難易度を調整したり、専攻が異なる学生が集まる教室でも興味や研究内容に応じた学習環境を整えるよう工夫をしている。

また、学生からの評価が高い科目でも、今後に向けての反省点・課題を具体的に挙げており、授業に対するPDCAサイクルを確立していることがうかがえる。

このような各科目の授業に対する姿勢が、学生による授業評価アンケートで、教授方法、授業の満足度などで高い評価を受けていると認められ、このたびの受賞となりました。

三浦 正志 教授 (主な担当授業科目) エレクトロニクス計測、電磁気学、電気機械システム、  
ほか

受賞の対象となった科目では、学生の興味関心を喚起するよう、常に授業内容の改善を図りながら、次のような意識を持って授業運営を行っていました。

- ・ エレクトロニクス計測 : 複数学科の学生が受講していることを配慮し内容を組み立てていました。
- ・ 電気機械システム : 以前の履修学生のコメントを参考にして、難易度を調整するなど分かりやすさを向上させていました。
- ・ 電磁気学 : プロジェクターを使って分かりやすい授業を心がけ、学生からも理解しやすかったという評価が数多くありました。

このような各科目の授業に対する姿勢が、学生による授業評価アンケートで、教授方法、授業の満足度などで高い評価を受けていると認められ、このたびの受賞となりました。

## 文学部

**澁谷 智子 准教授** (主な担当授業科目) 社会学入門、社会福祉概論

受賞の対象となった2科目は、概論的な講義科目であるため幅広いテーマを取り上げる必要があるが故に、テーマごとでの学生の理解度のばらつきが出てしまい、授業運営が難しい面があります。それを澁谷先生は、授業中の課題を通して、学生に自分の意見をまとめる機会を適時適切に設けるなど、学修効果を高める授業を展開しています。

この授業の取り組みについての学生からの評価は高く、授業評価アンケートで満足度が高いという評価が得られ、さらには学生への成績評価等の講評においても丁寧に回答しています。学生満足度と学生に対する丁寧な対応が認められ、このたびの受賞となりました。

## 法学部

**山田 崇人 教授** (主な担当授業科目) 多読で学ぶ英語と文化

山田先生は、長年「多読」(平易な洋書を大量に読むことで、英語の大量インプットを可能とする学習法)の学習スタイルを本学の英語科目に取り入れて、学生の英語力向上に取り組んでいます。また、紙のテキストだけでなく、ICT環境、Webサイトを積極的に活用して、常に新しい英語教育を取り入れているとともに、ICT環境を学生指導にも活用し、学生に提示した課題の進捗状況の把握、質問や意見等への早い対応など、丁寧な指導を行っています。

これらの取り組みは、先生の「学生にもっと英語に親しんでもらいたい」という探究心の表れであり、この姿勢が、学生による授業評価アンケートでの満足度の高さにつながっていると認められ、このたびの受賞となりました。

**立石 洋子 助教** (主な担当授業科目) フレッシュャーズ・セミナー、社会科学方法論、政治学の基礎

受賞の対象となった科目は、1年次の政治学科の演習科目および成蹊教養カリキュラムに配置される政治学の入門的科目であるため、学生の興味関心を喚起することが難しいものですが、これらの科目で情熱を持って学生に対し次のように粘り強く丁寧な指導を行っています。

- ・フレッシュャーズ・セミナーおよび社会科学方法論：学生の主体的な関心を引き出すため、学生に司会・発表・論点提起をさせる、少人数のグループで学生の発言や議論を促す、毎回レポートを課し、すべて添削する、学年末に課すエッセイを添削し、学びの振り返りを促す、など様々な工夫を取り入れ、学問の厳しさと楽しさを教授している。
- ・政治学の基礎：身近な日本の事例を中心に、テーマ毎に時事ネタを織り込みながら授業を展開し、4・5回程度課すレポートにより、授業で学んだことを通じて、自分と政治との関わりについて学生自身に考えさせる機会を設けるようにしている。

このような授業に対する姿勢は、学生による授業評価アンケートで満足度が高いことはもとより、質の高い学生が養成されていることで教員からの信頼も厚いことにもつながっていることが認められ、このたびの受賞となりました。

## 英語科目

### ハガ サチエ 国際教育センター常勤講師 (主な担当授業科目) Independent Study III

ハガ サチエ先生は、本学着任以来、成蹊教養カリキュラムにおける英語科目、成蹊国際コース科目の実践の中心的な存在として活躍され、また、国際教育センター主催の事業(English Chat Time など)の運営についての改善の取り組みを行うなど、一貫して本学学生の英語力向上および国際交流の発展にも多大な貢献をしています。

受賞対象となった、国際コース必修科目の Independent Study III では、Project based learning 型の授業を実践し、学生が2年次の Independent Study I および II で学んだ調査手法を活用し、学生自らの考えを英語で表現できるよう、多くの工夫を重ねてきました。当該授業内でポスターセッションを実施し、多くの教職員が授業見学を行ったことで、学内での授業内容の共有化を図る取り組みも行いました。

また、この科目以外に担当する科目も含めた全体の評価として、学生による授業評価アンケートでは、学生の英語力向上への工夫、受講者同士のコミュニケーションによる授業の活発化を図る取組みなどについて高い評価を得ており、学生も刺激され、興味をもつように授業実践されていました。

このように、担当する授業の取り組み内容や学生からの評価が顕著であることが認められ、このたびの受賞となりました。